III. 刊行報告書抄録

第140集　三ヶ所遺跡・西田面遺跡

要約

三ケ所遺跡

（1）古代の陶器類に窯業遺跡で見られる焼成不良品や窯道具が含まれていた。

（2）浄瓶、双耳杯、鳥摘蓋など「特殊器種」が出土した。

（3）鳥摘蓋は破片資料ではあるが、全国で15例目となった。

（4）瀬戸から東濃諸窯における古代末の窯業遺跡で散見する「広久手型寸胴鍋」が出土した。

（5）上記諸例などから、折戸諸窯から窯業製品を運搬したと考えられる天白川の中継地点である蓋然性が高い。

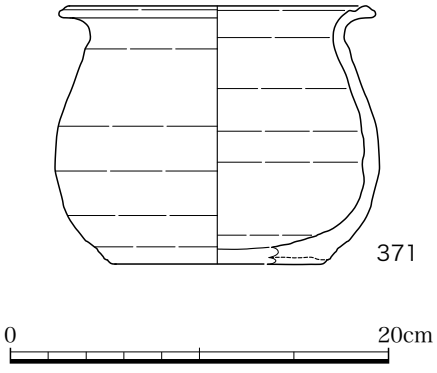
西田面遺跡

（6）SK04出土の長頸瓶と壺底部は、蔵骨器の可能性がある。

（7）中世陶器類に焼成不良品が含まれていた。

（8）竪穴建物と区画溝、これらから出土した中世陶器類の状況、三ケ所遺跡遺跡と同様の立地条件などから、中世窯業製品の集荷場、つまり物資流通関連施設と考えた。

（永井宏幸）



三ヶ所遺跡出土「広久手型寸胴鍋」



西田面遺跡SK04出土遺物

報告書抄録

ふりがな	さんがしょいせき・にしだめんいせき
書　　名	三ケ所遺跡・西田面遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第140集
編 著 者 名	永井宏幸
編 集 機 関	財団法人　愛知県教育・スポーツ振興事業団 愛知県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161
発行年月日	2008.3.31

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
さんがしょ 三ケ所 遺跡	にっしんしあさだちょう 日進市浅田町	23231	130178	35° 07′ 47″	137° 01′ 20″	20011008～ 20020111 20030217～ 20030228 20041025～ 20041202 20050815～ 20050930	3,600	県道岩崎 名古屋線 建設
にしだめん 西田面 遺跡	にっしんしあさだちょう 日進市浅田町	23231	130179	35° 07′ 35″	137° 01′ 03″	20040113～ 20040225	1,000	県道岩崎 名古屋線 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三ケ所 遺跡	集落	古代 中世	竪穴建物 溝・土坑 溝・土坑	須恵器・灰釉陶器 陶器	河川付近の 陶器類集荷場か
西田面 遺跡	集落	古代 中世	土坑 竪穴建物 溝・土坑	須恵器・土師器 陶器・土師器	

文書番号	三ケ所遺跡　発掘届(12埋セ208-11)　通知(12教生216-47)　終了届・保管証・発見届(13埋セ8-1・5・3)　鑑査結果通知(12教生216-47) 発掘届(13埋セ73)　通知(13教生36-11)　終了届・保管証・発見届(13埋セ151)　鑑査結果通知(13教生36-11) 発掘届(14埋セ89)　通知(14教生72-9)　終了届・保管証・発見届(14埋セ164)　鑑査結果通知(14教生72-9) 発掘届(16埋セ45)　通知(16教生1096)　終了届・保管証・発見届(16埋セ79)　鑑査結果通知(16教生1786) 発掘届(17埋セ23)　通知(17教生858)　終了届・保管証・発見届(17埋セ62)　鑑査結果通知(17教生1610) 西田面遺跡　発掘届(15埋セ78)　通知(15教生72-8)　終了届・保管証・発見届(15埋セ113)　鑑査結果通知(15教生72-8)
要　　約	三ケ所遺跡は古代陶器類の焼成不良品、窯道具類などの出土から、古代陶器類の集荷場と推定した。 西田面遺跡は中世陶器類の焼成不良品と区画溝を伴う非屋敷地であることから、中世陶器類の集荷場と推定した。

第142集　上品野蟹川遺跡

瀬戸市上品野町地内に所在する遺跡であり、品野盆地の中央付近を流れる水野川、蟹川の合流域付近の調査を行った。現況はほとんどが水田耕作地となっており、絵図等により水田化の時期は少なくとも近世まで遡ることが判っている。

調査により河川流路と微高地状の地形が確認され、このうち中州状の微高地にかけて9世紀代を中心とする集落跡が検出された。遺構は竪穴建物跡 1 棟と周辺にやや大型の土坑数基と柱穴群があり、出土した灰釉陶器はK-14～K-90号窯式期にピークが認められる。品野盆地に分布する古代の集落遺跡では比較的古い時期となり、旧蟹川など河川流路変更に伴う影響や周縁丘陵部の集落成立期との関係が注目される。品野盆地の遺跡では、これまでにも多くの墨書資料が出土しており、今回の出土資料では複数字句（「文室門」）の墨書が複数個体で認められることなどが特徴である。

（武部真木）



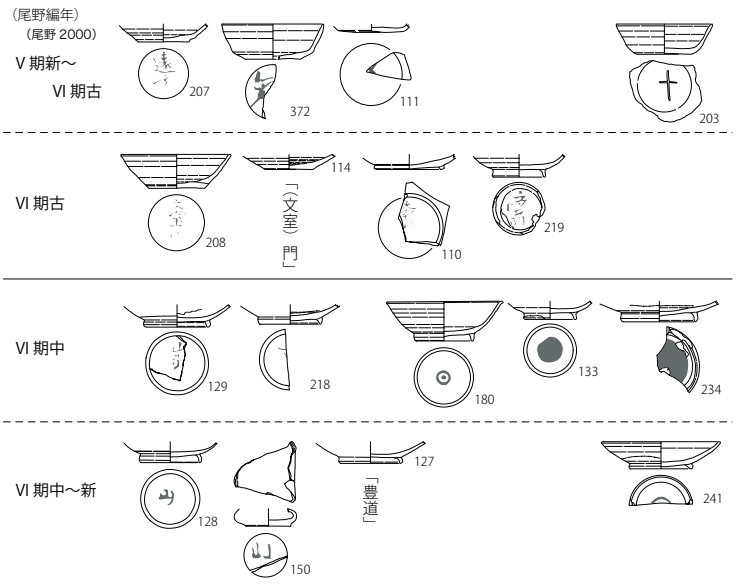
00A区SB01（竪穴建物）



01A区全景（河川流路）



墨書「文室門」



墨書のある須恵器・灰釉陶器

報告書抄録

ふりがな	かみしなのかにかわいせき
書名	上品野蟹川遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第142集
編著者名	武部真木(編集)・鬼頭　剛・川添和暁
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
かみしなのかにかわ 上品野蟹川	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	030737	35度 15分 22秒 (世界測地系による)	137度 8分 11秒	2000.1～3 2000.10～12 2001.10～ 2002.3 2002.8 2003.1～3	10,359	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上品野蟹川遺跡	集落	平安時代 鎌倉時代	竪穴住居・土坑・ 自然流路	灰釉陶器・土師器 瀬戸・美濃産陶器	墨書灰釉陶器

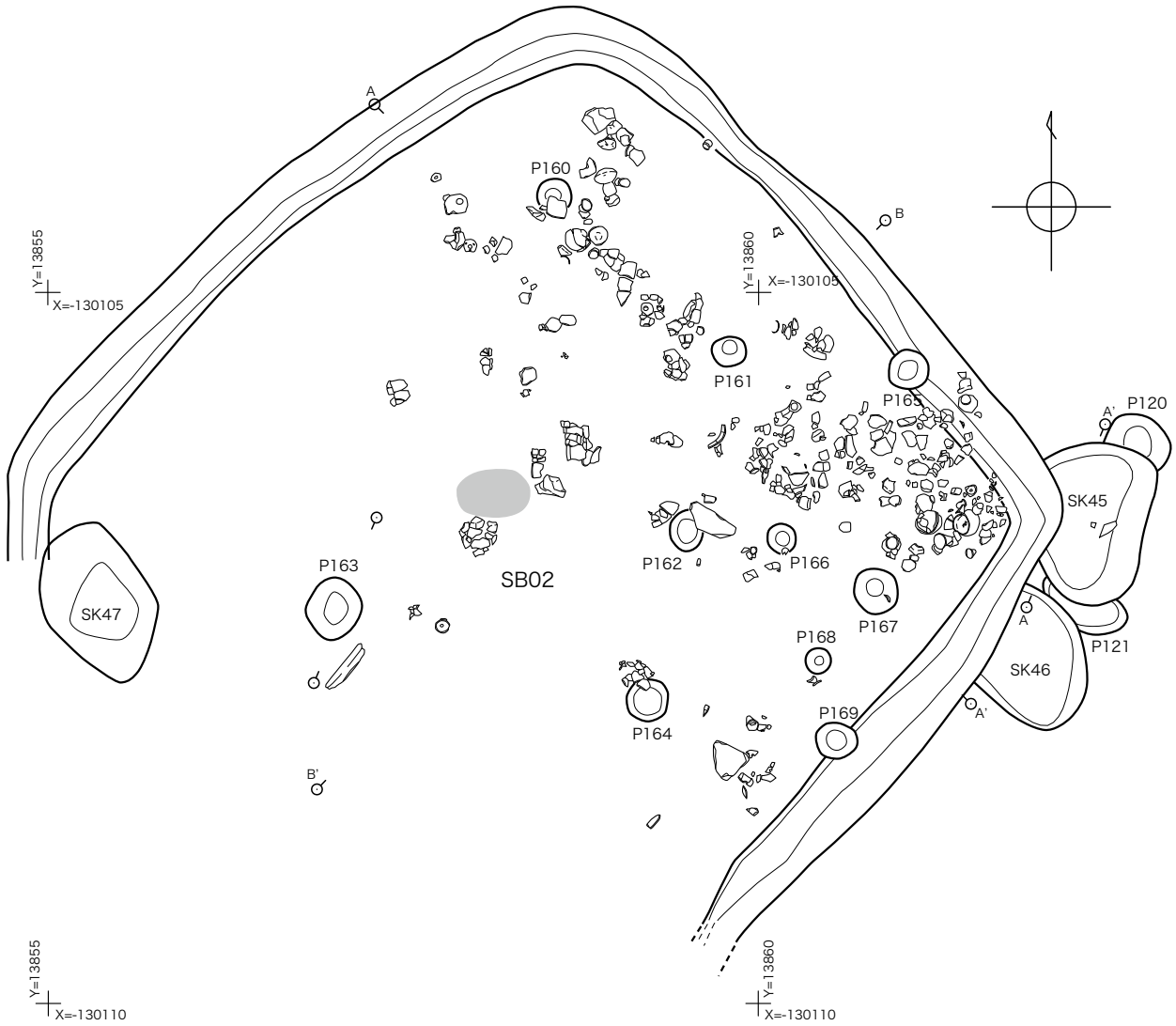
文書番号	発掘届出(11埋セ第198-2号,第163-2号, 13埋セ第82号,14埋セ第59号) 通知(12教文第61-5号,12教生第216-36号,13教生第36-16号,14教生第72-7号) 終了届(12埋セ第49-8号,12埋文セ第197号,13埋セ第186号14埋セ第183号) 発見届・保管証(12埋セ第48-8号,12埋文セ第197号,13埋セ第186号14埋セ第183号) 監査結果通知(12教文第61-5号,12教生第216-36号,13教生第36-16号,14教生第72-7号)
要約	河川流路に囲まれた中洲上の微高地に営まれた9世紀代の集落の周辺部。河川堆積層から、K-14～K-90号窯式に属する須恵器・灰釉陶器に「文室門」をはじめとする墨書を多数を確認した。

第143集　高坂遺跡

高坂遺跡は、宝飯郡御津町に位置する。調査地点は、北西から南東方向に向かってゆるやかに下る斜面で、山林、耕作地が広がっていた。調査区は、県道大塚国府線建設予定地を二年度に分けて設定し、平成11年度に99区、平成16年度には04区として実施した。総調査面積は3,500㎡で、調査期間は99区が平成11年８～12月、04区が平成16年10月～平成17年２月である。

出土遺物の整理作業は、調査中に洗浄・注記作業を行い、引き続き平成18年度に報告書作成までの作業を行った。その結果、高坂遺跡は継続的ではないが、弥生時代末～古墳時代初頭、古代、中～近世の複合遺跡であることが判明した。その中でも04区では、古代の竪穴住居と考えられる遺構が主体をなしていて、ゆるやかな斜面にこの時期の集落が展開していたことが確認できた。

（松田　訓）



SB02　平面図　(1/ 50)

報告書抄録

ふりがな	こうさかいせき
書　　名	高坂遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第143集
編集者名	松田 訓・宮腰健司
編集機関	財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方８０２-２４　℡0567-67-4161
発行年月日	西暦　２００８年3月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
こうさか 高坂遺跡	あいちけん　ほいぐ　ん　みとちょう　ひろ　いし 愛知県宝飯郡御津町広石	23604	85017	34° 49′ 47″	137° 18′ 54″	1999.8.17 ～1999.12.24	3,500	県道大塚国府線建設に伴う発掘調査
				34° 49′ 46″	137° 18′ 58″	2004.10.12 ～2005.2.11		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高坂遺跡	集落ほか	弥生～近世	方形周溝墓 竪穴住居	弥生・土師器 灰釉陶器	

文書番号	発掘届出(10埋セ106　1998.4.1)　発掘許可(10教文11-6　1998.4.14) 発掘届出(11埋セ116　1999.5.31)　発掘許可(11教文61-20　1999.6.8) 発掘届出(16埋セ46　2004.8.31)　発掘許可(16教生1097　2004.9.15) 終了届(10埋セ 141　1998.5.21)　発見届(10埋セ 142　1998.5.21) 終了届(12埋セ 5　2000.1.12)　発見届(12埋セ 6　2000.1.12) 終了届(16埋セ102　2005.2.15)　発見届(16埋セ102　2005.2.15) 保管証(10埋セ 142　1998.5.21)　認定(10教文61-6　1998.6.29) 保管証(12埋セ 6　2000.1.12)　認定(11教文61-20　2000.2.23) 保管証(16埋セ102　2005.2.15)　認定(16教生2142　2005.3.29)

要　　約	本遺跡は、三河山地東部の、山裾に広がる台地上に展開する。調査では、弥生時代末～古墳時代初頭の竪穴住居跡、方形周溝墓や、古代の竪穴住居跡を主体とした遺構が複数検出され、居住域だけでなく、墓域として利用された時期も考えられることから、当該期に近隣に所在した集落も想定される。本遺跡は、台地上に展開する遺跡群に含まれているものと思われ、周辺の集落遺跡を含めた実態を解明する上で、貴重な資料として位置づけることができよう。

第147集　一色青海遺跡II

一色青海遺跡は濃尾平野南西部に所在する、弥生中期後葉の拠点的集落である。平成15年度に発掘調査を行い、竪穴建物104棟、掘立柱建物15棟のほか、多数の遺構を確認した。

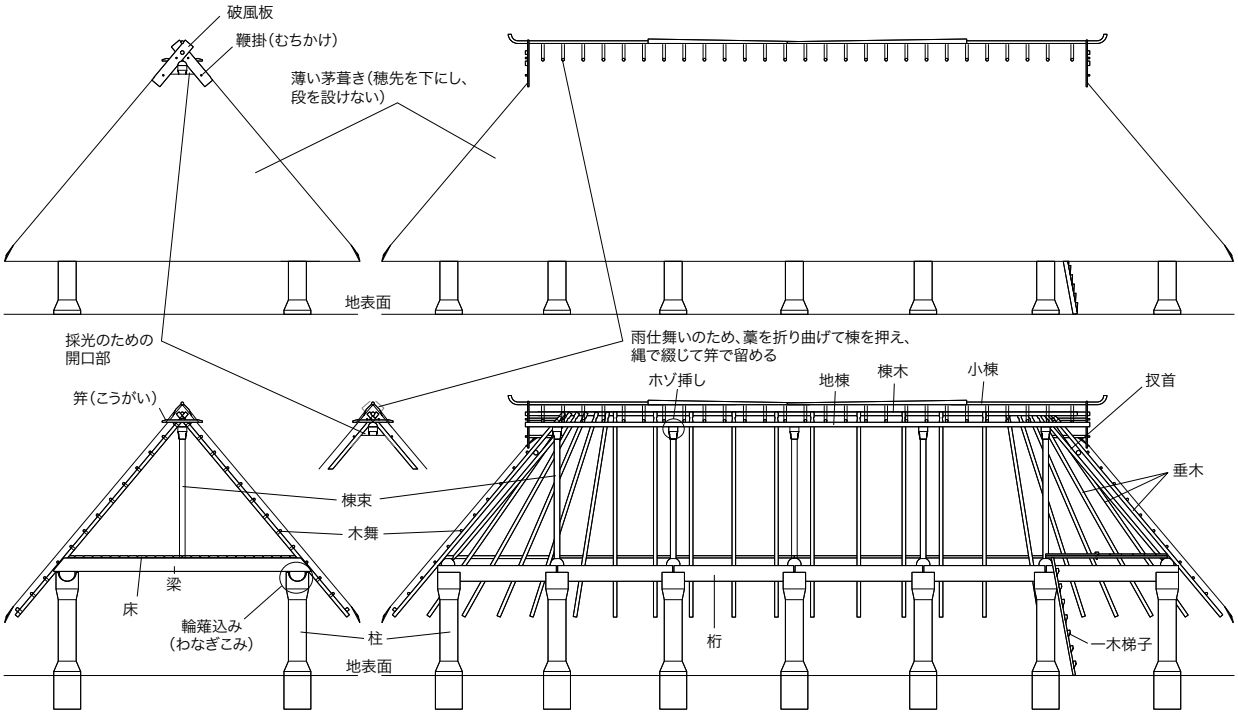
なかでも、調査区のほぼ中央で検出した掘立柱建物SB017は、桁行16m(5間)、梁間5m(1間)を測る巨大な建物で、弥生中期後葉としては、東日本で最大級を誇る。さらに、独立棟持柱を持たないという特殊な構造であることも特徴の一つとしてあげられる。

今回の報告書では、このSB017の上屋構造を復元することに特に力を注いだ。

また、大型掘立柱建物SB017の周辺には、長辺が10m近い大型の竪穴建物が集中しており、同時期の拠点的集落では、大型掘立柱建物と大型竪穴建物がワンセットとして中枢部をなしていることがわかった。

これまでの調査分を含めると、本集落が最も繁栄した時期には、竪穴建物40棟が建ち並び、約200人もの人口を擁していたと推定できる。伊勢湾周辺では、ほぼ同時期に、同じような規模の集落が複数存在していることがわかっており、この規模の集落がほぼ律令期の郡単位のエリアで中核をなす集落であると推定している。

(樋上　昇)



大型掘立柱建物 SB0017 復元案

報告書抄録

ふりがな	いっしきあおかいいせき
書　　名	一色青海遺跡　II
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第 147 集
編著者名	樋上　昇・鬼頭　剛・蔭山誠一・中村俊夫・黒坂貴裕・久保禎子・植田弥生・新山雅広
編集機関	財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦 2008 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
いっしきあおかい 一色青海	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 へいわちょうすがたに 平和町須ヶ谷	23220	270013	35 度 14 分 20 秒	136 度 45 分 20 秒	2003.6.18 ～ 2004.3.17	7,124	日光川上流流域下水道浄化センター建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
一色青海遺跡	集落跡	弥生時代 中期後葉	竪穴建物 104 棟、掘立柱建物 15 棟、柵列 4 基、方形周溝墓 5 基、溝 20 条、土坑 205 基	弥生土器、土製垂飾、木製品、石器、管玉、動物遺体、植物遺体	東日本最大級の大型掘立柱建物
	墓跡	鎌倉～ 戦国時代	溝 36 条、土坑 222 基		

文書番号	発掘届出 : 埋文（15 埋セ第 9 号） 発掘届出：県教委（15 教生第 72-4 号） 完了報告（15 埋セ第 126 号） 文化財認定（15 教生第 72-4 号）

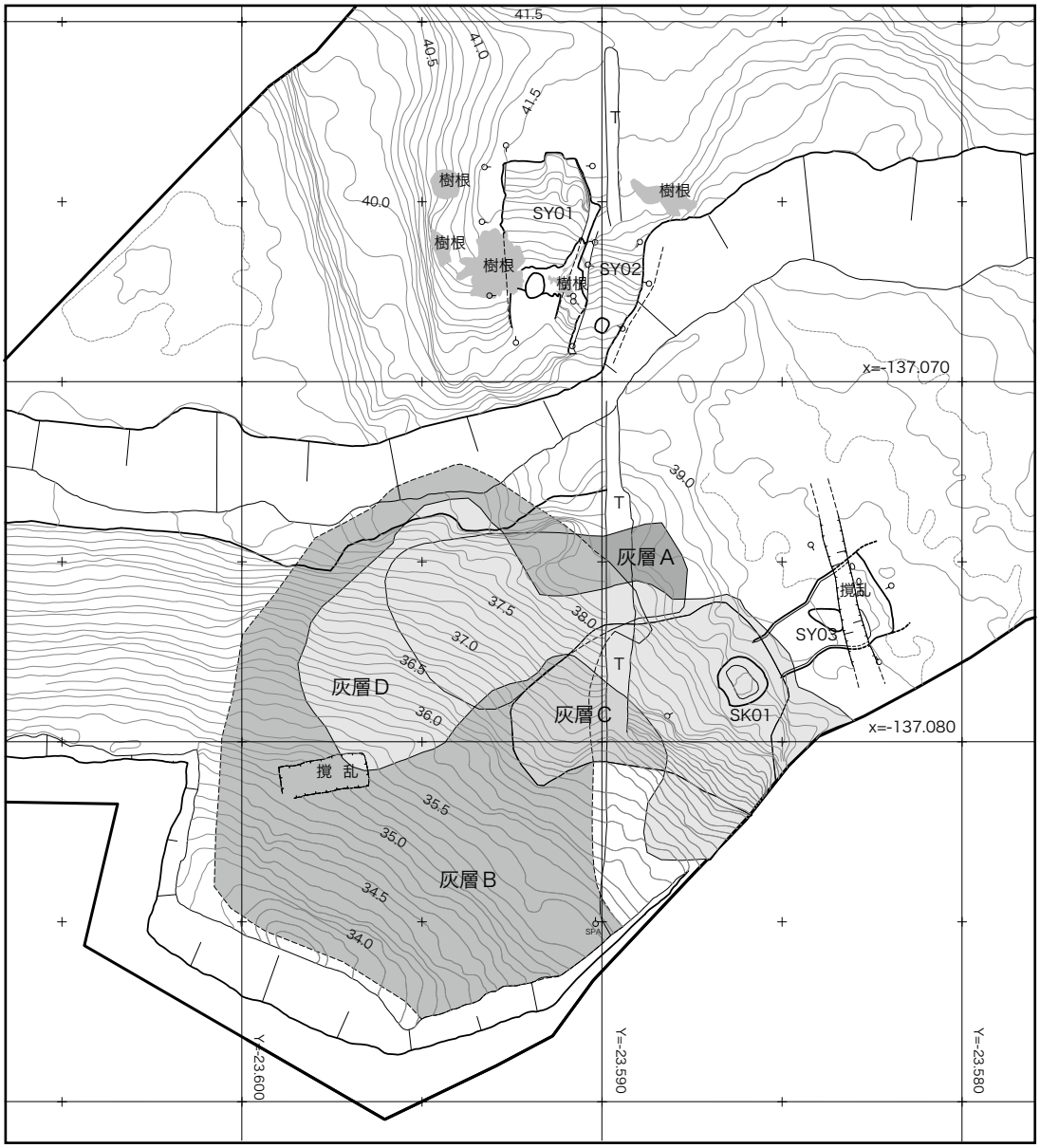
要　　約	濃尾平野南西部の拠点になる弥生中期後葉の集落跡。集落の中心部を調査し、東日本で最大級の大型掘立柱建物 1 棟のほか、大型竪穴建物数棟を確認し、当該期における弥生集落の内部構造を明らかにした。

第149集　細田古窯群

細田古窯群は、知多郡美浜町河和地内に位置する。調査地点は、南から南西方向に向かって下る斜面で、山林、果樹園等が広がっていた。調査区は県道半田南知多線建設予定地に設定された。調査面積は900㎡で、調査期間は平成15年４～７月である。

出土遺物の整理作業は、調査年度に洗浄・注記作業を行い、引き続き平成18年度に報告書作成までの作業を行った。その結果、12世紀中葉～13世紀初頭と考えられる窯体３基と、これにともなう灰層の重なりなどを検出した。今回の調査は、知多半島古窯跡群の中ではほぼ南端にあたり、窯業生産の展開状況を調べる上で、これまでの調査成果に新たな資料として追加された。

（松田 訓）



窯体周辺図　(1/200)

報告書抄録

ふりがな	ほそだこようぐん
書　　名	細田古窯群
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第149集
編集者名	松田 訓
編集機関	財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　℡0567-67-4161
発行年月日	西暦　2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ほそだこようぐん 細田古窯群	あいちけん ちたぐん 愛知県知多 みはまちょう こう 郡美浜町河 わ 和	23446	490118	34° 46′ 31″	136° 54′ 1″	2003.4.28 ～2003.7.11	900	県道半田南知多線建設に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
細田古窯群	古窯跡	鎌倉初頭	窯体3基 灰層	山茶碗・皿	

文書番号	発掘届出（14埋セ169　2003.3.28）発掘許可（15教生72-1　2003.4.7） 終了届（15埋セ33　2003.7.17）　発見届（15埋セ33　2003.7.17） 保管証（15埋セ33　2003.7.17）認定（15教生72-1　2003.8.15）

要　　約	本遺跡は、知多半島南部の丘陵上に展開する。調査では、鎌倉時代初頭の山茶碗・皿を焼成した窯跡が複数検出された。本遺跡は、知多半島に展開する古窯址群に含まれるものと思われ、周辺の古窯跡を含めた生産実態を解明する上で、貴重な資料として位置づけることができよう。

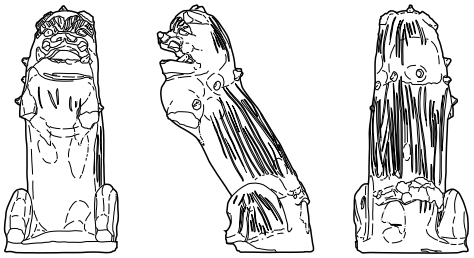
第150集　惣作・鐘場遺跡II

惣作・鐘場遺跡は瀬戸市東部の惣作町・鐘場町に所在し、矢田川支流である赤津川の左岸の標高170m前後の洪積河岸段丘上に立地する。今回の調査は、国道248号道路改良工事にともない、本センターが平成12～16年度に実施した。全21調査区、総調査面積は28,650㎡である。これまでに検出された遺構・遺物は旧石器時代終末から近世末までの時期に及ぶ。出土遺物量は本センターが標準的に使用する内容量27Lコンテナでおよそ700箱である。

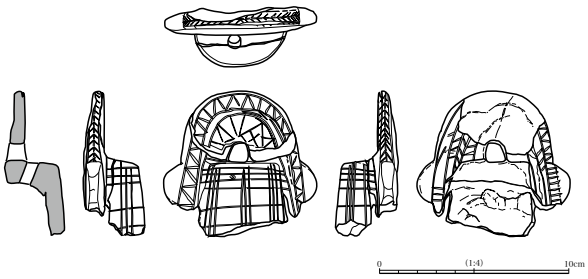
遺構・遺物の主な時期として１.縄文時代中期～後期 2.弥生時代後期 3.古墳時代前期 4.古墳時後期 5.奈良時代～平安時代初頭 6.室町時代後期がある。この中で中心となるのは古墳時代と室町時代である。

古墳時代前期は、惣作川より北の調査区域で竪穴住居が検出される。弥生時代後期からこの時期まで存続した溝内から比較的まとまって遺物が検出されている。古墳時代後期はほぼ全域で竪穴住居が検出され、遺跡全体に集落が展開することが確認されている。遺構の大部分は近年の耕作等の撹乱によって削平され、遺物の遺存状況は全体に悪い。

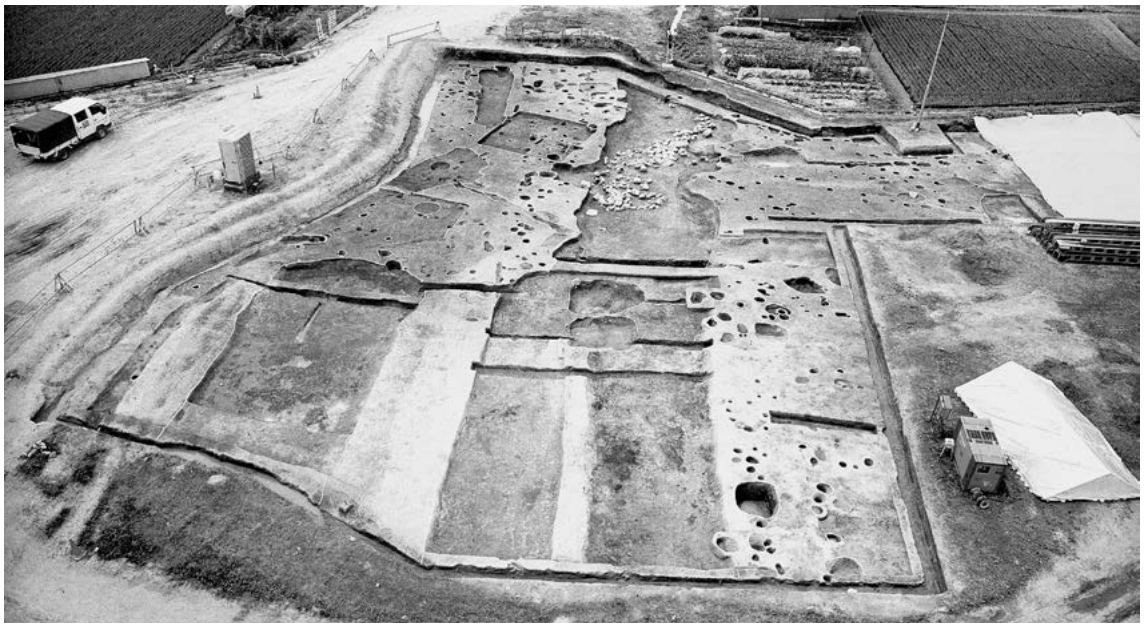
室町時代後半から戦国時代前期の遺構については、中心となるのは惣作川より南の調査区南部で、段丘のほぼ中央の平坦面に14世紀後葉から16世紀初頭にかけての集落が展開する。15世紀後半に集落の周囲に溝が形成され、3～4時期に変遷し、16世紀初頭に集落が廃絶する。この時期に集落内に掘立柱建物の柱穴が集中し、溝等から陶器類、木製品がまとまって検出されている。この集落の性格や、変遷及び廃絶の過程については今後の検討課題である。　（酒井俊彦）



戦国時代 狛犬



弥生時代 銅鐸型土製品



04Db区全景 （東から）

報告書抄録

ふりがな	そうさくかねばいせき に
書　　名	惣作・鐘場遺跡 II
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第150集
編 著 者 名	酒井俊彦
編 集 機 関	財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24 TEL0567(67)4161
発行年月日	2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
惣作・鐘場遺跡	瀬戸市惣作町・鐘場町	03	03792	35° 12′ 47″	137° 07′ 47″	20011120～ 20040931	28,650	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
惣作・鐘場遺跡	集落	旧石器時代		有舌尖頭器	
		縄文時代	竪穴住居	縄文土器	中期集落
		弥生時代	竪穴住居　溝	弥生土器	後期集落
		古墳時代	竪穴住居	土師器　須恵器	集落
		奈良時代	竪穴住居	土師器　須恵器	集落
		平安時代	竪穴住居	土師器　須恵器　灰釉陶器	集落
		鎌倉時代～室町時代	掘立柱建物　土坑　溝	山茶碗　古瀬戸施釉陶器　土師器　木製品	集落
		江戸時代	掘立柱建物　土坑　溝	瀬戸窯産施釉陶器 土師器鍋	集落

文書番号	発掘届	発掘許可	調査終了届	遺物発見届	埋蔵文化財保管証	埋蔵文化財認定
	12埋セ163-1 12.11.1	12教生216-39 12.12.7	12埋セ 13.3.30	12埋セ 13.3.30	12埋セ 13.3.30	12教生216-39 13.5.28
	12埋セ208-5 13.3.9	12教生216-48 13.3.30	13埋セ 13.10.24	13埋セ 13.10.24	13埋セ 13.10.24	12教生216-48 13.12.11
	13埋セ174 14.3.1	14教生36-28 14.3.14	14埋セ101 14.10.21	14埋セ99 14.10.21	14埋セ100 14.10.21	14教生72-8 14.12.27
	15埋セ8 15.4.30	15教生72-2 15.5.12	15埋セ118 16.3.25	15埋セ118 16.3.25	15埋セ118 16.3.25	15教生72-2 16.3.31
	15埋セ111 16.2.25	15教生72-10 16.3.5	16埋セ61 16.10.21	16埋セ61 16.10.21	16埋セ61 16.10.21	16教生1787 17.1.27

要　約	旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。縄文時代から近世の各時代に渡って集落が展開する。中心となる時代は古墳時代と室町時代である。室町時代に多数の掘立柱建物が展開し、15世紀中葉に集落の周囲に大溝を巡らせ、16世紀前半に廃絶する。

第155集　牛寺遺跡

要　約

（1）牛寺遺跡（豊田市御立町地内：北緯35°04′25″、東経137°10′17″、標高39m前後）は、矢作川左岸段丘低位面に位置する。

（2）縄文時代中期後半の土器敷炉（SK06）をともなう竪穴建物（SB02）を確認した。土器は接合した結果、数個体分を使用している。すべて神明式。

（3）壁溝をともなう6m四方の方形プランの弥生時代後期の竪穴建物（SB01）を確認した。プランのほぼ中央に川原石を伴う炉跡を確認した。

（4）古代の遺構については、南方約70mに位置する牛寺廃寺と関連する遺構が期待された。根石をもつ土坑を２ヶ所確認した。比較的規模の大きな土坑であったが、1対として想定できるが、建物配置を考えるにはいたらない。牛寺廃寺との関連も不明である。

（5）中世の遺構については、豊田市教育委員会1991年調査区と酷似する遺構群を確認した。南北方向に延びる溝（SD01・02）とピット（柵）列は、時期と配置も含めて両調査区で共通する。ただし、東西方向の遺構群が不明なため、両者を直接結びつけることはできない。したがって、遺構群の規模や性格は不明である。

（6）牛寺廃寺調査区に隣接する箇所で、堀状の落ち込みが確認されている。時期としては今回の中世遺構群より新相ではあるが、周辺に大規模な区画を伴った施設を想起させる。

（7）遺跡の北方約200mに位置する古城遺跡と森城跡との関連は認められなかった。古城遺跡は中世川港的な性格が付与されている。もし、今回の遺構群（SD01・02とピット列ほか）を関連するものとすれば、古城遺跡の方向に直線で結ぶ道路状遺構とも推定できる。ただし、古城遺跡の中世遺構のピークは牛寺遺跡と重ならない。　（永井宏幸）



牛寺遺跡全景写真（後方は豊田スタジアム）

報告書抄録

ふりがな	ごでらいせき
書名	牛寺遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第155集
編著者名	永井宏幸
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802番24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ごでらいせき 牛寺遺跡	あいちけん　とよたし 愛知県豊田市 みたちちょう 御立町	23211	630359	35度 04分 25秒	137度 10分 17秒	2005.6.～ 2005.7.	1,300	矢作川 野見地区 改修事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
牛寺遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古代 中世	炉 竪穴建物 土坑 区画溝	土器・打製石斧 土器 土器 陶磁器・土器	縄文時代中期神明式の土器敷炉を確認。中世区画溝は既調査の溝と関連する。

文書番号	発掘届出(16埋セ第114号 2005.3.14) 通知(16教生第2156号 2005.3.23) 終了届・保管証・発見届(17埋セ第34号 2005.8.2) 鑑査結果通知(豊教財第592号 2005.9.30)

要約	本遺跡は、矢作川左岸、山付堤付近に位置する。縄文時代中期、弥生時代後期の竪穴建物はいずれも中世以降の削平により一部残存するに留まった。周辺の遺跡から数棟で形成された集落の可能性が高い。 古代「牛寺廃寺」の北側に隣接した今回の調査は、古代寺院に関連する遺構が期待されたが、遺物も含めて稀少な結果となった。 1991年調査で明らかになった中世の溝と柱穴列は、今回の調査でも確認できた。中世の居館あるいは寺社関連の施設に関連した区画と推定できる。

第156集　須ヶ谷遺跡・西海塚遺跡・山王遺跡

本文133ページ　写真図版29ページ

遺跡所在地　稲沢市平和町

調査理由　県道稲沢津島線道路改築工事

調査期間　平成16年11月～平成17年3月

調査面積　須ヶ谷遺跡1341㎡、西海塚遺跡461㎡、山王遺跡738㎡

調査概要　須ヶ谷遺跡では上部で中世、下部では複数面にわたって弥生時代中期の遺構・遺物が検出された。特に、方形周溝墓群からなる墓域の検出は大きな成果であった。西海塚遺跡では近世の土地利用、山王遺跡では中世の井戸が検出され、集落縁辺の状況が確認できた。また、自然流路も見つかり、河川の動態に関する貴重な資料が得られた。

報告書の概要　須ヶ谷遺跡の遺構に関しては、弥生時代中期中葉において方形周溝墓が小期ごとにそれぞれ小グループをなし、居住域の縮小に合わせて墓域を拡大したことが明らかになり、それはちょうど北に接する野口北出遺跡と同じで、居住域の縮小と合わせた一連の動きといえ、これらがひとつの集落である可能性が高まった。その範囲は800m程であり、清須市から名古屋市にまたがる大集落遺跡である朝日遺跡に匹敵する。とりわけ、前期の条痕紋系土器（水神平式）に辿ることができる須ヶ谷形甕の存在は、それが朝日遺跡の《朝日形甕》に対峙するものであることから、同様の10km圏の核が須ヶ谷遺跡にも想定可能になった。今後、甕以外の諸器種、また各種道具類の実態が明らかになれば、これまでのように朝日遺跡が濃尾平野唯一の大規模集落遺跡であるとは言えなくなる可能性がでてきた。

西海塚遺跡と山王遺跡については、中世以降における自然堤防地帯の土地利用の実態が、自然流路や水路の改変と合わせて理解することができた。今後も、遺構・遺物が希薄な区域の調査が必要になろう。

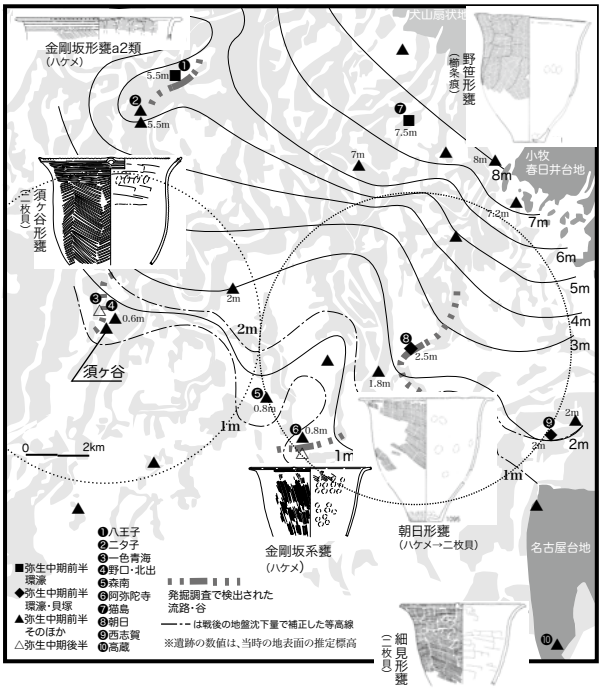
（石黒立人）



須ヶ谷遺跡05調査地



西海塚・山王遺跡全景



弥生中期前葉：甕の地域色

報告書抄録

ふりがな	すかたにいせき・にしかいづかいせき・さんのういせき
書名	須ヶ谷遺跡・西海塚遺跡・山王遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第156集
編著者名	石黒立人・加藤博紀・鬼頭　剛
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802番24　TEL 0567(67)4163
発行年月日	西暦2007年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
すかたにいせき 須ヶ谷遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 へいわちょうかんのんどう 平和町観音堂	23220	270014	35度 13分 39秒	136度 45分 14秒	2005.11.1 ～ 2006.3.31	1,341	県道津島稲沢線道路改築工事
にしかいづかいせき 西海塚遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 へいわちょうかんのんどう 平和町観音堂		270003				461	
さんのういせき 山王遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 へいわちょうかみみやけ 平和町上三宅		270004				738	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
須ヶ谷遺跡	散布地	弥生	方形周溝墓・竪穴住居	弥生土器	
		近世	溝・土坑	近世陶器	
西海塚遺跡	散布地	近世	溝・土坑	近世陶器	
山王遺跡	散布地	古代・中世	自然流路・井戸	須恵器・灰釉陶器・山茶碗	
		近世	溝・土坑	近世陶器	

文書番号	発掘届出(17埋セ第59号 2005.9.30) 通知(17教生第1354号 2005.10.20) 終了届・保管証・発見届(17埋セ第127号 2006.3.23) 監査結果通知(18教生第467号 2006.6.14)

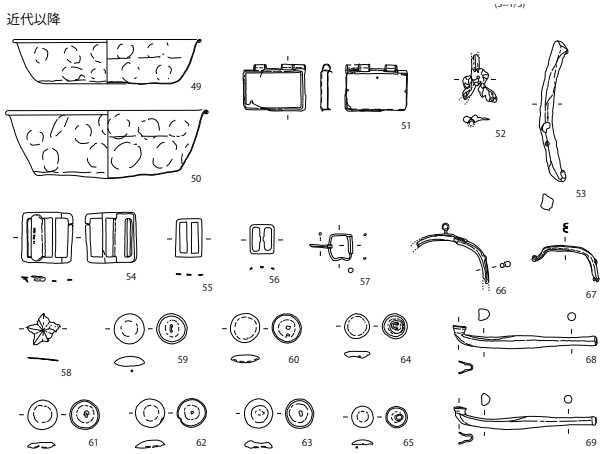
要約	須ヶ谷遺跡では、弥生時代前期から中期前半の竪穴建物跡や土坑、弥生時代中期中葉後半以降の方形周溝墓群や竪穴建物跡を検出し、弥生中期の大集落の一端を垣間みた。中世以降の流路跡、溝・土坑が検出された。そして山王遺跡では、中世以前の自然流路や中世の井戸を中心に溝・土坑が検出され、西海塚遺跡では、近現代の溝・土坑が検出され、土地利用の変遷を明らかにした。

第161集　名古屋城三の丸遺跡VIII

愛知県埋蔵文化財センターによる名古屋城三の丸遺跡の調査は今回で第８次となる。調査地点は三の丸地区でもやや西寄りの南端に位置する。北側には隣接して２地点の調査が完了しており（報告書III、報告書VI）、これらにより近世武家屋敷のある１区画について、道（南御土居筋）に面した屋敷表から屋敷裏までの範囲を概観することが可能となった。拝領武家屋敷の規模が確認されたほか、内部の空間構成についても具体的な様相と「表」「裏」の性格の違いが明瞭となった。

また、終戦まで名古屋城全域を管理下においた「陸軍第三師団」に関連する近代の多様な遺物が出土したが、これらは軍隊における「日常性」の一端を語る資料としても評価されるものであろう。第二次大戦末期に急造された５基の軍用防空壕の痕跡など記録には残されていない可能性があり、資料的価値は今後さらに高まっていくものと考えられる。

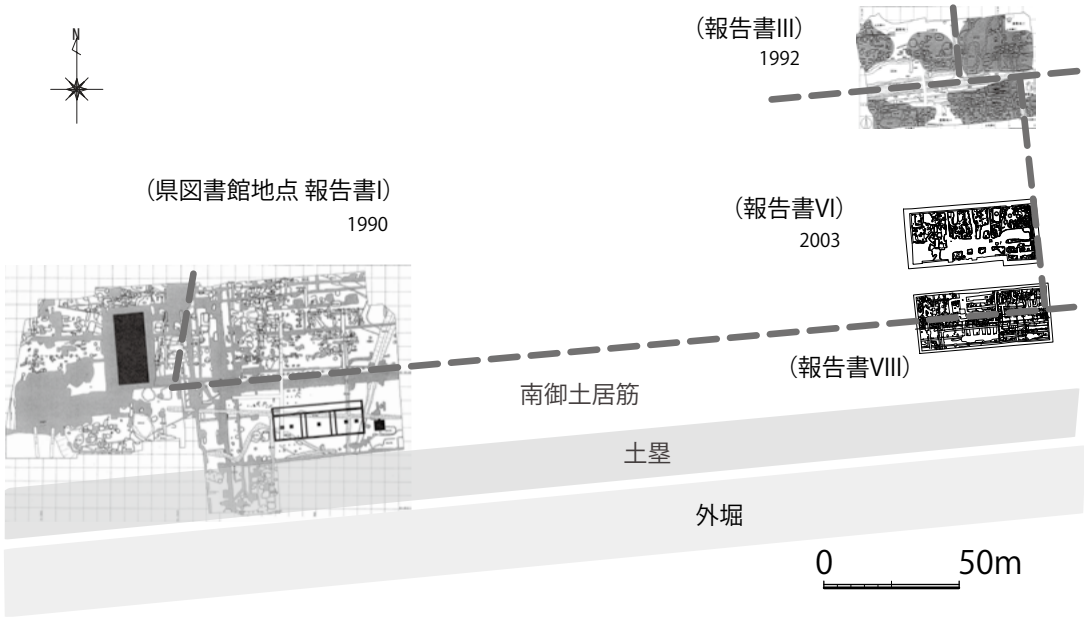
（武部真木）



出土した金属製品



ガラス瓶類



調査地点の位置関係

報告書抄録

ふりがな	なごやじょうさんのまるいせき
書名	名古屋城三の丸遺跡　VIII
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第161集
編著者名	武部真木(編集)・加藤博紀・鈴木正貴・鬼頭　剛・蔭山誠一・川添和暁
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なごやじょう 名古屋城 さんのまる 三の丸	あいちけんなごやし 愛知県名古屋市 なかくさんのまる 中区三の丸一丁目	23106	007027	35度 10分 43秒 (世界測地系による)	136度 53分 54秒	2006.11 ～2007.3	1,089	名古屋高等・地方・簡易裁判所庁舎増築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
名古屋城 三の丸遺跡	城館跡	戦国時代 江戸時代 近代	堀・区画溝・井戸・土坑・防空壕	近世陶磁器,土器 近代陶磁器 金属製品	旧陸軍関連遺構

文書番号	発掘届出(18埋セ第37号) 通知(18教生第1275号) 終了届(18埋セ第105号) 発見届・保管証(18埋セ第105号) 監査結果通知(19教文第10-3号)

要約	戦国期那古野城に関連する堀、溝等を確認し、近世では南面する武家屋敷の屋敷表の範囲、および道の一部が明らかになった。明治以降この地を占有した陸軍第三師団に関連する遺物、防空壕跡などを確認した。